



# 働き方改革

市の男女共同参画社会づくりに関する意識調査で、男女がともに働きやすい職場をつくるためには、「男女とも仕事と家庭生活が両立できるような職場環境をつくる」という回答の割合が高くなっています。高齢化がすすむなか、労働者の中には育児だけでなく介護も行い、時間に制約のある方が増加しています。

今、仕事と家庭の両立など多様なニーズに対応できる職場環境づくりが求められています。

## 求められる多様な働き方

人口減少社会においては、労働力人口の増加は見込めません。労働力人口を確保するには、高齢者や女性の就業機会を拡大し、その積極的な活用を図ることが重要です。

また、働きながら育児をすることを可能とする「仕事と家庭の両立支援」によって少子化の流れを食い止めていく必要もあります。

近年、ワーク・ライフ・バランス※1、フレックスタイム※2などの言葉をよく耳にするのは、多くの方が多様な働き方に関心をもっているからです。

国においても、働き方改革は、一徳総活躍社会の実現に向けた最大のチャレンジとして、働き方改革実現会議を開催し、政府のガイドライン案が提示されています。

人口減少社会においては、労働力人口の増加は見込めません。労働力人口を確保するには、高齢者や女性の就業機会を拡大し、その積極的な活用を図ることが重要です。

また、働きながら育児をすることを可能とする「仕事と家庭の両立支援」によって少子化の流れを食い止めていく必要もあります。

近年、ワーク・ライフ・バランス※1、フレックスタイム※2などの言葉をよく耳にするのは、多くの方が多様な働き方に関心をもっているからです。

## 女性が輝く先進企業2016 内閣府特命担当大臣 (男女共同参画)表彰

社会福祉法人あいの土山福祉会 エーデル土山

社会福祉法人あいの土山福祉会エーデル土山は、介護・福祉事業を行われています。職員の約7割が女性で、女性職員の活躍は絶対不可欠です。「育児・家庭」と仕事を両立しながら働き続けられる体制整備に努め、女性職員の育児、介護による離職者ゼロを目標とされています。

この理念のもと、女性の活躍推進のためには、職員のワーク・ライフ・バランスの向上が必要不可欠と認識し、プロジェ



▲女性が輝く先進企業受賞式（後列左がエーデル土山廣岡さん）

クトチームを立ち上げ、「働きやすさナンバーワン」をめざして職員の定着率向上を図っておられます。その取り組みや実績、情報開示において顕著な功績が認められ、滋賀県初となる内閣府特命担当大臣（男女共同参画）表彰を受賞されました。

## 『働きやすさ ナンバーワン』 への改革

エーデル土山副施設長  
ひろおかたかゆき  
廣岡隆之さん



介護は対人サービスのため、職員が気持ちよく働けなければ、良いサービスは提供できません。職員は「財産」として考え、女性職員だけでなく職員全員が働きやすい職場づくりを構築しています。

### 2 メンタル不調の撲滅

ストレスによる離職を防止するため、チームワークの強化やハラスメント（嫌がらせ）撲滅の徹底、業務上の問題、相談を聞く職員を配置し、迅速に対応できるように努めています。

### 3 残業の撲滅

常に余剰人員を持ち、急な職員の欠勤や早退にも対応できる充実した体制を整備しています。また業務改善にも努め無駄な業務を徹底精査しています。

### 魅力的な職場を情報発信

やり方次第では十分に魅力的な職場づくりができることをわかりやすくホームページ上に公開しています。中小企業や、福祉現場に取り組みを知ってもらいたいという工夫をしています。

### 職員の家庭事情等に合わせた働き方を構築

多様で柔軟な働き方の推進として、個人面談を毎月行い、育児や介護をしながら働く職員が就労を継続できるように柔軟な労働時間や出勤日数の対応を行っています。

仕事と家庭を両立する支援として、1日の所定労働時間を8時間から7.5時間に短縮することをめざしています。法人オリジナルの小冊子で男性職員の家事・育児・共働きのメリットを紹介し、男女関係なく、社会全体で育児や介護を支えていくという意識改革を行っています。

また、子どもは宝と位置づけ、職員が妊娠した際の業務内容を取り決め、フォローできる体制を構築しています。育児や妊娠をみんなが支える組織風土をつくっています。

### 1 トリプルゼロへの挑戦

#### 腰痛の撲滅

移乗用電動リフトを多数導入し、人力での持ち上げ介助は原則禁止としています。

### ◎改革への取り組み

- 介護業界の離職理由である腰痛、メンタル不調、残業の3つを撲滅する「トリプルゼロ」への挑戦
- 職員の家庭事情等に合わせた働き方を構築
- 魅力的な職場を情報発信